



委員会等活動成果

国際関係委員会 欧州調査部会

“The Actuary”の記事紹介

Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2003年11月号から

2003年12月8日

英国の年金受給者の死亡率改善と年金財政に与える影響

英国の The Continuous Mortality Investigation Bureau (以下 C M I (下記注1 参照)) は、長期保険契約の死亡率・罹患率の分析、生命表の作成を行っている。「The Actuary 11月号」では C M I が発表した年金受給者の死亡率改善の状況・将来動向、年金保険財政への影響について紹介している。

C M I によれば、60歳男性の平均余命は向上し続けており、1955年には18年であったものが1992年には22年まで伸びている。また、昨年10月に発表した将来予測では、2003年に60歳である男性の平均余命は27年まで伸びるであろうとしている。

このような大きな改善が驚くほど早いスピードで起きている理由について「次の千年の死亡率」(Mortality in the Next Millennium ; Richard Willets 著) では、「1925年から1945年までに生まれた群団」(この論文では健康世代 (healthy generation) と呼称) の死亡率改善が大きいとしている。この世代は前後の世代と比較して明らかに死亡率改善度合いが大きい、その理由として「前の世代よりも低い喫煙率」「医学の進歩による感染症死亡率の低下、中年期の循環器疾病の死亡率改善」などが挙げられている。中でも1970年頃から始まった喫煙率低下が大きく寄与しているようである(50代男性では死亡率改善の3割程度が喫煙率低下の影響ではないかと述べられている)。一方、健康世代以降の死亡率改善度合いが相対的に低くなっている理由としては、「薬物・アルコール・エイズによる死亡率増加」などが挙げられている。

健康世代を中心に死亡率が大きく改善していくことにより、公的年金を支払っている政府、年金保険を取り扱っている生命保険会社などが受ける影響は大きなものになるであろう。これに対処するため、政府は年金開始年齢の引き上げを行うであろうと予想されている。また、年金負債をより慎重に評価するため、確定給付型年金の年金資産保有に関する規制である M F R (Minimum Funding Requirement) において計算基礎として使用されている死亡率を、将来の死亡率改善を見込んだものに変更すべきであると述べられている(下記注2参照)。一方生命保険会社については、年齢が60歳から75歳の年金契約のコストが現在よりも約5%増加すると見



積もられるため、年金給付に充てる資産を増やすとともに、新規年金受給者への給付額の減額が必要になると見込まれている。

死亡率の急激な改善は年金財政に多大な影響を与えるため、早期に詳細な調査を行い、早期に対処することが求められる。特に、年金資産を積まずに確定給付年金を支払っている国が多い EU においては特に深刻な問題であり、専門職であるアクチュアリーだけでなく、社会全体で対処方法を考えていくべきであろう。

注 1)

CM I は英国アクチュアリー会の下部組織で、英国およびアイルランドの生命保険業界のほとんど全ての会社からデータを受け取って、継続的に長期保険契約（生命保険、年金、特定疾病保険、健康保険）の死亡率、罹患率に関するデータを分析している。

注 2)

英国アクチュアリー会 Pensions Board 作成のガイダンスノート 27 において、MFR の計算基礎として使用する死亡率は、PA90 生命表*の 2 歳若い年齢のものであることが規定されているが、それを 12 歳若い年齢のものにすべきであると述べられている。

*PA90 生命表とは…Pensioners Amounts 90 生命表の略で、1967～70 年の死亡率観察結果をもとに、“給付額 (amounts)”基準で 1990 年の死亡率を予測して CM I が作成した生命表である。なお、生命表の作成基準には“給付額 (amounts)”基準の他に、“生存者数 (lives)”基準がある。

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会の HP をご覧下さい。

<http://www.the-actuary.org.uk/>

FOCUS "A Longer Life"